

ゴルフ場跡地に「おいしい森」をつくる ～パーマカルチャーのデザインプロセスを取り入れてみえてきたこと～

森と木のクリエイター科 森林環境教育専攻 佐藤 聖人

1. 背景

私は 2 年程前まで林業現場で働いていた。現行林業のあり方に閉塞感を感じていたとき、スイスのフォレスターが実践する「人も自然も豊かになる森づくり」¹ と出会い強くあこがれた。そしてある時、興味深い森づくりプロジェクトを見つけた。「人と森が共生できる社会を目指す」というスローガンで、荒れたゴルフ場跡地を 100 年かけて森に還すという、食品メーカー（株式会社銀の森コーポレーション）のプロジェクト² だった。私は自身の理想を重ねた。そして縁あってそのプロジェクト担当となり、森づくりのヒントを得るために本校に入学した。

本学での様々な体験の中で見出したのが、「食べられる森」とその背景にあるパーマカルチャー（以下、PC）の考えだ。PC とは人と自然が共存する持続可能な暮らしや社会をつくるためのデザイン概念だ。

今、世界中で食の源である土壌が破壊されている。国連食料農業機関によると、私たちが現在の速度で土壌を劣化させ続けた場合、残される収量は 60 年ほどだと言われており³、PC も土壌の再生を重視していることを知った。

ゴルフ場跡地を舞台に食品メーカーが土壌を再生し、おいしい果物やナッツなどが実る食べられる森を作ることを想像し、「これだ！」と感じた。

そこで、森づくりに PC を取り入れ、おいしい食べられる森をつくることを方針に定め、2022 年 6 月に会社の合意を得た。その後、PC デザイナーのサポート⁴ の下、そのデザインプロセス⁵ に基づき森づくり構想の検討を始めた。

2. 本研究の目的と方法①

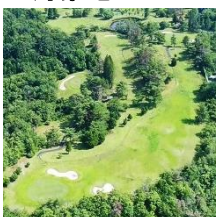
ゴルフ場跡地においておいしい食べられる森をつくるには土づくりから始めることが重要だという仮説を立て、PC のデザインプロセスに基づいたフィールド及び周辺の観察をし、考察する。



パーマカルチャーには 3つの倫理と 12の原則がある

| 観察項目（一例） |
|--|
| 【環境要素】 気候/地形/風/土壌/水/太陽と陰/野生動物 植物/エネルギーとインフラ |
| 【社会要素】 地域資源・文化/地域史/社内資源/社内 人材・人的ネットワーク/法律・規制・ 慣習/会社、従業員、自己の願い |

3. 対象地



- 岐阜県中津川市茄子川にある恵那峡パークカントリークラブ跡地（2016 年に閉鎖。対象面積は約 11ha）
- 敷地内には 2022 年より同社の食品工場が竣工・稼働して

いる（名称：銀の森キャンパス）。

4. 実践と結果①

環境要素とし特筆すべきことは土壌の状態だった。約 40 年間ゴルフ場としてあり続けた大地は、固く締まっていた。降った雨は地中に浸透せず表層を流れ、数箇所まで崩壊が起っていた。また閉鎖されて 7 年近く経つが、コース上の草本の根は、地中深くには入れず、地表際を這うように伸びていた。また木本もほぼ育っていなかった。こうした状況を土づくりの専門家⁶ に伝えたところ、次のようなアドバイスをいただいた。①土の団粒構造が崩壊している②森をつくるには土づくりから始める必要がある。



垂直方向に根が張れず
横に根を伸ばすヨウシュヤマゴボウ

一方、社会要素としては、従業員へのアンケート調査から、工場から出る生ごみを減らしたい、堆肥として活用したいという声があることがわかった。

5. 考察と課題①

上記から、おいしい食べられる森をつくるには、まず土づくりから始める必要があること、そこに生ごみが活用できる兆しがあることが明らかになった。これは PC の「Produce no waste（ゴミを豊かさに変える）」という原則と合致している。

他方で、社内での森づくりプロジェクトへの認知度が低いことや、そもそも多くの従業員がフィールドに訪れたことがないことも課題として見えてきた。

6. 実践と結果②

そこで、従業員に森づくりの考えを知ってもらうことや、フィールドと親しんでもらうために、企画を 2 つ実施した。1 つはチェンソーアートだ。工場建設時に伐採し処分になっていた丸太を、木彫家に提供し、出来た作品を社内に設置した。2 つ目は、フィールド散策イベントの実施だ。銀の森キャンパスを案内し、皆で協力して火を起し、ピザを焼いて食べる企画（OPEN DAY）を実施した。



ウサギのアート作品
従業員がマフラーを巻いてくれた

前者については、アート作品の近くに QR コードを設置し、森づくりの活動ブログ⁷ が読める仕掛けを施した。作品を通して、今まであまり知られていなかった森づくりの取り組みが伝わり、従業員同士やお客さんとの会話を生み出す効果をもたらした。



OPEN DAY で皆でピザをつくる様子
普段できない交流から
様々なプラス効果生まれた

また後者に関しては、森づくりの周知や会話促進による社内の風通し改善の他、

参加者同士で物の交換が起きたり、PC について学ぶ人が出てきたりするなど、予想以上の効果が見られ、継続を望む声も上がった。また、驚いたことに、イベントに参加していない会社役員から応援のメッセージも頂いた。

7. 考察② デザインプロセスから見えてきたこと

PC には「People Care」という倫理がある。活動を豊かに続けていくために、自分を含め活動に関わる人、それも子孫にまで配慮するというものだ。それ故 PC では人々の絆や繋がりを大切にしている。「人がいて森もつくられる」のだ。そして今回の実践はそのことを強く感じさせるものとなった。つまり、森をつくるためには、「人と人の絆や繋がりをつくっていくこと＝人づくり」が大切なのだ。むしろ森づくりは、実は人づくりなのかもしれない。この新たな仮説を基に、今後も今回実践したような「人づくり」を大切にしながら、活動を続けたい。

8. 展望

以上のような経験を積みながら、森づくり構想の検討は現在も進んでいる。最後に今後の展望も含め、現況を伝えたい。

まず森づくりのタイトルは「おいしい森づくり」。森も森づくりも“おいしい”のだ。“おいしい”とは、単に森で新鮮な果物やナッツなどを食べることに留まらない。森の恵みから心と体を満たすような食事やそれを食べる道具を生み出したり、森で遊びを作り出したり、くつろぎ癒されたりすることも含んでいる。また、おいしさは与えられるだけでなく、自ら育てたり、森づくりを通して新たに見つけたりするのだ。人と分かち合うこともおいしさが増す秘訣であろう。そして森ともおいしさを分かち合う。生ごみや排水を森の栄養として循環させ、いきものたちにも収穫物はシェアする。つまり「おいしい森」とは、人にとっても森にとっても豊かさをもたらす森なのだ。そして大切にしたいこと（コンセプト）は 4 つある。

「おいしい森づくり」が大切にしたいこと

①共にプロセスも味わう

森は一日にしてならず。今の土の状態ではなおさらだ。そこを従業員や地域の方、さらにはビジターと共に 100 年かけて森にしていく。食べられる森を育み、収穫をし、食べ物だけでなく、食べるに必要な道具や場をも共につくっていく。つくるプロセスこそおいしく、新たなおいしさの発見にも繋がるのだ。

②小さくゆっくりはじめる

何事も小さくゆっくりはじめるからこそ、負のフィードバックも小さく、対応がしやすい。結果、将来世代もおいしさを味わえるのだ。

③変化に柔軟である

今後 100 年の間に自然はもちろん、社会も変わる。それらに柔軟に対応すべく、自ら変わっていくことを恐れない。むしろ変化を利用する。

④循環させる

人の活動が自然を豊かにしていく。生ごみは土に変え、再び森に還していく。排水も植物たちの栄養となると同時に、浄化される。人の活動で出る、従来廃棄されてしまうものを、おいしさを育む資源として循環させる。そのためにも、活動で使う物は、地球に還る自然にもおいしい物を使う。

これらコンセプトで森を育み、森の成長と共に社内外にファンも増え、森も人も豊かになることを目指す。

次に上記コンセプトとフィールド観察の結果を踏まえ、全体のゾーニングを行った。その後詳細のデザインを決めていった。ここで肝心なのは、「デザインは変わるもの」ということだ。森づくりのコンセプトには、PC の原則でもある「変化に柔軟である」ことを掲げた。ダイナミックな相手（自然）と向き合うからこ



全体のゾーニング

詳細(エディブルフォレスト)のデザイン案

そ、つくりながらより良いものへ変えていくつもりだ。

描いたデザインを実装していくのは今年 5 月から。そこで、現在その実装計画を考えている。まずは「活動の土台づくり」をテーマに、拠点施設や植栽などの準備を、人づくりと共に実施していく予定だ。

最後に、自身の抱負を述べたい。私は本学の 2 年間頭を悩ませる日々が多かった。理想（学校）と現実（会社）の狭間にいたこと、森づくりの構想を考えるということが私の身に余るものだったからだ。しかし、本学にて PC というものと出会い、今後自分なりに追及していきたいと思うことができた。本研究はその始まりに過ぎない。これからがより大変になると思うが、PC の倫理でもある「自身を含めた人への配慮」をしながら PC デザイナーの道を進んでいきたい。

9. 参考

1 スイスの森林管理と林業 (kinshizenforestry) / 2 銀の森 100 年の森づくり計画 (<http://ginnomori.info/profile/moridukuri.html>) / 3 2015 年国際土壌年 (fao.org) / 4 Works(permaculturedesignlab.com) / 5 Permaculture Design Process with Dan Palmer (milkwood.net) / 6 五段農園 (5dan-farm.com) / 7 恵那 銀の森 公式ブログ (ginnomori.info) ※全て 2023 年 2 月 10 日取得